

### 【3-4 クリニカルクエスチョンの設定】

スコープで取り上げた重要臨床課題(Key Clinical Issue)				
<p>「存在診断」</p> <p>悪性胸膜中皮腫は、通常自覚症状から発見されることが多く、その場合は進行症例も多いため、治療抵抗性である。一方、近年における画像診断能力の急速な進歩により、検診や他疾患フォローアップ中の定期的な検査で発見される患者も増えつつある。そこで、その疾患の存在を疑う早期画像診断についてガイドanceが必要である。</p>				
CQの構成要素				
P (Patients, Problem, Population)				
性別	指定なし			
年齢	成人(18歳以上)			
疾患・病態	中皮腫を疑う集団			
地理的要件	医療体制の確立した地域			
その他	特になし			
I (Interventions)／C (Comparisons, Controls) のリスト				
I: a) 胸部造影CT、b) 胸部単純/造影CT+胸部MRI、c) 胸部単純/造影CT+FDG-PET/CT C: a) 胸部単純CT、 b) とc) 胸部単純/造影CT				
O (Outcomes) のリスト				
	Outcomeの内容	益か害か	重要度	採用可否
O1	診断率	益	9点	○
O2	安全性	害	6点	×
O3			点	
O4			点	
O5			点	
O6			点	
O7			点	
O8			点	
O9			点	
O10			点	
作成したCQ				
胸膜病変の良悪性の鑑別に、a) 胸部造影CT、b) 胸部単純/造影CT+胸部MRI、c) 胸部単純/造影CT+FDG-PET/CTは勧められるか？				

#### 【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	中皮腫
対象	中皮腫疑い患者
介入	胸部造影CT
対照	胸部単純CT

\*バイアスリスク、非直接性

各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

\*\* 上昇要因

各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

各アウトカムごとに別紙にまとめる

### コメント(該当するセルに記入)

#### 【4-7 評価シート エビデンス総体】

診療ガイドライン	中皮腫の存在診断に a) 胸部造影CTは勧められるか?
対象	中皮腫患者
介入	胸部造影CT
対照	胸部単純CT

エビデンスの強さはRCTは“強(A)”からスタート、観察研究は弱(C)からスタート  
\* 各ドメインは“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階  
\*\* エビデンスの強さは“強(A)”、“中(B)”、“弱(C)”、“非常に弱(D)”の4段階  
\*\*\* 重要性はアウトカムの重要性(1~9)

コメント(該当するセルに記入)